

2024 年度外国語学部 FD 活動報告

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では 2024 年度の FD 活動の取り組みとして、10 月 9 日（水）15 時 30 分～17 時に Q 棟 103 教室にて COIL 型授業に関する FD 講演会を開催した。国際教育の新たな潮流である COIL 型授業は、多様な文化や価値観を超えた学びの場として注目を浴びているが、その一方でコーディネートの労力や技術的なハードルなど運用上の課題も少なくない。そこで「COIL 型授業の課題と展望」と題して、講師として国際センターの藤掛千絵先生に南山大学の新しい COIL 支援体制について説明していただき、その後外国語学部の先生がた（SAKAMOTO 先生、永田先生、茂木先生、平田先生、RIESSLAND 先生、張先生）にパネリストとして各学科の実例を紹介していただいた。講演に先立ち、国際担当副学長・国際センター長の山岸敬和先生よりご挨拶をいただいた。講演後の質疑応答においては、講演者と参加者のあいだで、COIL 授業を行う上での課題や問題点、大学への要望などについて活発な議論がなされた。斬新な教育方法や便利なツールなどの情報提供もあり、FD 活動にとって非常に有意義な講演であった。参加者数は 25 名であった。

2024 年度の各学科の FD 活動の詳細は以下のとおりである。

英米学科

- 1) 【人事】後任人事については、アメリカ研究 2 枠の公募を行い、面接候補者 4 名、最終候補者 2 名を選んだが、1 名は、教授会審議の前に、もう 1 名は、評議会の資格審査報告の前に辞退された。よって、2 枠とも枠を埋めることができず、1 枠は、第 3 位であった候補者で 2025 年 9 月任用を目指して人事を進めている。もう 1 枠は、再公募することにし、3 月 31 日締め切りで公募を行っている段階である。
- 2) 【推薦入試】本件は、データの分析を合わせ、引き続き検討を続けている。
- 3) 【長期留学】本件は、検討中であるので、引き続き検討していく。
- 4) 【必修科目の内容と評価】Academic English のコーディネーターを中心に、2025 年度に向けて、教材の開発を行っている。
- 5) 【カリキュラム内容の検討】本件は、引き続き検討を続けていく。
- 6) 【学科内の役割分担】本件は、特任講師の突然の退職、後任人事がうまく進んでいないこと、留学教員が 2 名いることで、-5 枠という人員不足での学科運営で、大変な年度であった。2025 年度も、後任人事枠の-2、教員の留学-1 で、前期は-3 枠で迎え、人事がうまく行けば、後期から、-1 または 0 となる予定である。このような事情も踏まえた上で、本件は継続して検討していく。
- 7) 【COIL 授業や CJS の学生へのオープンコースの開放】

以下の科目で、COIL 授業、オープンコースへの開放が実施された。

COIL 授業の実施

演習Ⅱ (Sakamoto, Fern : University of Maryland Baltimore County)

AEB (Sakamoto, Fern : University of Maryland Baltimore County)

演習Ⅰ (今井隆夫 : University of Maryland Baltimore County)

CJS のオープンコース

演習Ⅱ (3 年ゼミ : 鈴木達也 : 1 名)

演習Ⅱ (3 年ゼミ : 今井隆夫 : 1 名)

英語科指導法 C (今井隆夫 : 6 名)

演習Ⅱ (3 年ゼミ : 花木亨 : CJS 生の登録者なし)

8) 【講演会の実施】2024 年度は、下記の 2 件の講演会を実施した。

A) 日時: 2024 年 5 月 1 日 (水) 9:10-10:50

場所: R56 教室 (R 棟)

講師: Dr. Alice Yah-Huei Hong

Professor, College of Communication

Fu Jen Catholic University

演題: Advertising Campaigns in Japan and the U.S.

主催: 外国語学部英米学科

B) 日時 : 2024 年 10 月 26 日 (土) 13:00~14:30

場所 : オンライン (Zoom)

講師 : 佐原彩子氏 (共立女子大学国際学部教授)

演題 : ベトナム系とアメリカ大統領選挙

主催 : アメリカ研究センター

共催 : 外国語学部英米学科

9) 【英語教員セミナーの実施】

2024 年 8 月 1 日 (木)、8 月 2 日 (金)、8 月 5 日 (月)「9 時 30 分~15 時 15 分」の 3 日間、「英語教員が会える問題の解決法」(How to overcome challenges that English teachers face)」をテーマに、英語を教える際に糧となる知識とコミュニケーション演習の両輪を向上させる講座を実施した。担当講師は、次の通りであった。内田浩樹 (国際教養大学教授)、浅野享三 (元南山大学外国語学部教授)、CRIPPS, Anthony (南山大学外国語学部教授)、SAKAMOTO, Fern (南山大学外国語学部准教授)、COCHRANE, Robert (南山大学外国語学部講師)。

10) 【Oral Interpretation Festival】

2024 年 7 月 20 日 13 時から、第 7 回全国英語オーラルインタープリテーションフェスティバルを開催した。参加校は以下の 14 校であった。

①名古屋市立向陽高等学校、②三重県立四日市高等学校、③愛知県立高蔵寺高等学校、④名古屋市立東星中学校、⑤名古屋市立桜山中学校、⑥静岡県立静岡商業高等学校、⑦名古屋市立菊里高等学校、⑧名古屋市立北高等学校、⑨名古屋市立桜台高等学校、⑩エスコラ

ピオス学園 海星中学校・高等学校、⑪名古屋市立 振甫中学校、⑫プレゼント ボイスプロジェクト、⑬静岡市立大里中学校／静岡市立中田小学校（個人でグループを結成）、⑭愛知県立明和高等学校

スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 2024 年度は、2 名の特別任用講師をお迎えし、また 1 名の教員が長期療養より復職した。
新任教員および復職する教員に対しては、学科内で適切なサポートを行い、スムーズに学科業務に入って頂けるよう、学科会議等で情報共有しながら連携した。
- 2) ラテンアメリカ研究センターと連携し、国内外の優れた研究者・実務家を招いて講演会・研究会を開催することで、教員の研究意欲向上に努めた。
- 3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係を広げることができた。
学科教員 1 名が韓国のスペイン語学・スペイン語教育の学会で招聘され、また輔仁大学（台湾）に対してはオンラインで複数の講演およびワークショップを実施した。
- 4) 学科の教育指導冊子 Un, dos, tres al español は発行に至っていない。
- 5) 学科必修スペイン語科目、およびその他の言語科目については、言語科目コーディネーターを中心に、運営上の微調整を行う。言語科目コーディネーターを中心として、ネイティブ教員に対しては、日常的な意見交換が行なわれている。
- 6) 外国語検定試験（DELE や西検）の受験状況に関する学科学生へのアンケートを 2024 年度はオンラインのアンケートで実施し、受験・取得状況の包括的な把握に努めた。
- 7) 2023 年度より導入された新カリキュラムや科目の開講時期の変更について、その効果について検討した。
- 8) 海外フィールドワークについて、「海外フィールドワーク B」（メキシコ）、スペインでの「海外フィールドワーク A」が実施できた。
- 9) 学外におけるスペイン語やポルトガル語のスピーチコンテストは、学生への周知を図るとともに、積極的参加を促し、発音や原稿の準備など、必要な指導が行えた。
- 10) スペイン語劇について、2024 年度も担当教員の奮闘により実施できた。

フランス学科

- 1) 今年度春学期は教員1名が留学していたため、6人体制での学科運営であった。フランス語科目や学科科目において教員配置を変更することになったが、学科内で定期的にミーティングを開催し、カリキュラムおよび授業運営に問題がないか検証しつつ、教育体制に不備が生じないように対応した。秋学期以降は7人体制に戻り、大きな問題はなく授業運営ができた。
- 2) 専攻分け説明会を対面で開催し、社会専攻で扱われるテーマをより具体的に示すなど社会専攻の魅力を学科1年生に積極的に発信し、専攻間の偏り解消に努めた。しかしながら、結果的には、昨年度同様、今年度も二専攻間の人数の偏りはまだ解消できなかった。3年次

からのゼミの振り分けについて、一部の教員のゼミへの希望が集中する傾向があったが、学生に不利益が生じないように、議論を重ねながら振り分けを行った。

3) 履修ガイダンスおよび学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトやSNSの充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を適宜行った。「海外フィールドワーク」は、昨年に続きオルレアン大学、リヨンカトリック大学の2拠点での第2クォーター開催が実現した。

4) 学生の海外留学を促進し、派遣留学生数が昨年度より増大した。フランス語教育促進のための学生によるフランス語劇を12月に上演し、フランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励した。

5) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらに教育に活かすため、実用フランス語技能検定の団体受験を推奨した。さらに、アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会と協力関係を強化し、学科生たちの交換留学を奨励するために、DELF・DALF試験やTCF試験などの外部語学試験の団体受験を実施した。

6) 学科の Facebook およびウェブサイトを更新し、広報活動を継続的に行った。また、オープンキャンパスや高校における模擬授業などにおいて広報活動の活性化にも努めた。

7) フランス語圏に関する専門知識を有する専門家を招いて教員の研究・教育支援に関する講演会を開催する予定であったが、今年度は実現しなかった。

ドイツ学科

1) ドイツ語教育の質および教員の資質・能力向上のため、主にドイツ語科目を担当する教員を中心に定期的に情報共有・意見交換を行い、教員間の密接な連携を図った。連携には外国語教育センター所属の教員も加わり、学生の学習状況全体に目配りが届くよう努めた。

2) 2023 年度から再開した海外フィールドワークを本年度も実施した。ただし参加費高騰の影響もあり、ベルリンのみでの開催となった。また国際化推進の面では、複数授業で COIL 型授業を実施した。その一環として、リースラントゼミでは台湾への研修旅行が実施された。また、国際化推進事業として、ドイツから学生 2 名を招聘し、ドイツ学科生と授業などを通じて交流した。東京横浜独逸学園 (Deutsche Schule Tokyo Yokohama) の生徒を招いた交流プロジェクトも実施した。

3) 例年通り、講演会・レクチャーコンサートを 2 回開催した。また、キャリア関連の講演会についても 2 回実施した。どの講演会・レクチャーコンサートも内容の濃いもので、参加者にとっては貴重な機会となった。

4) 学科ホームページを通じて、学科独自の情報発信に努めた。今年度も、留学体験談やインターンシップ経験談、学生の活躍などを多く掲載することができ、ドイツ学科を受験しようとしている高校生へのアピールとなった。

5) 今年度は、岐阜東高校、中村高校、大垣東高校、多治見高校でそれぞれ模擬授業を行った。音楽社会学、外国語教育学、ドイツ語文学、ドイツ史、ドイツ経済など多様な専門分野

の教員が授業を行い、大学での学びを体験してもらう機会を作ることができた。

6) 学生の勉学の支援・成果発表の場としては、9月にドイツ語劇の上演会を開催した。また、9月に半田赤レンガ建物で開催された「ドイツ・フェスティバル」では、公開ゼミを開催し、学科生の普段の学びの成果を一般の方々とも共有した。そのほか、12月に名古屋市立大学で開催された第24回名古屋圏国公立大学インターゼミナールに中屋ゼミ生が参加し、他大学の学生とも交流をした。

7) 12月にゲーティンスティテュートのドイツ語能力試験を学内で実施した。14名が受験した。また年間を通してドイツ語能力検定試験の新規合格者は、各レベルの合計で30名となった。今後もこの人数を拡大していけるように学生への指導などを強化していきたい。

8) ドイツ文化研究会およびドイツ学科生の縦のつながりを強化する学生交流センター団体Kreisなどの課外活動への支援を継続した。

9) キャリア教育の一環として、10月にVGJ（フォルクスワーゲングループジャパン）の長期インターンシップ説明会を実施し、20名以上の学生が参加した。VGJでの長期インターンシップにも複数名の学生が参加した。

アジア学科

1) 初年次の学科必修科目とりわけ外国語科目と演習科目について、前年度から継続して学科会議や担当者ミーティングの場でその運用状況を報告するとともに、評価できる点と改善すべき点および受講生の学習状況について意見交換をおこなった。

2) 1年次生の専攻分けの結果、両専攻の人数にこれまでより大きな差が生じたので、学科会議において次年度の専攻分けでは人数の均衡が図れるよう検討を開始した。

3) 2023年度から再開した「海外フィールドワークA/B」について、引率のありかたを学科会議や専攻ミーティングで議論して効率的な形に改めるとともに、実施前ならびに実施中の期間に派遣先大学のスタッフとの協議を重ねてフィールドワークの円滑な実施を心がけた。

4) Q4末に卒業論文判定会議を開いて、学科で作成しているルーブリックに基づいて卒業論文の成績判定を客観的な形でおこなった。

5) 学科教員間および学科教員と非常勤講師の間で連携をとって、授業における学生の様子を随時把握しながら、電話やメール、SNSを活用するなどして必要に応じて学生指導をおこなった。また、授業運営についても学科教員と非常勤講師の間で随時連絡をとって意見交換をおこなった。

6) 学科特設Webページに今年度も幾つかの学科科目紹介を追加した。その際に受講生に依頼した紹介文をもとに、当該科目に対する学生の評価を確認した。また、学科公式Instagramでも写真や記事の適宜更新に努めた。

7) 2023年度から再開したインドネシア語スピーチコンテストを今年度も開催した。学外の高校生や大学生、社会人の参加も得て盛会となった。

- 8) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する支援として、個別相談への対応をおこなった。また面接等、国際センターの業務への協力も継続しておこなった。
- 9) 輔仁大学の学生と SNS で交流するプログラムを今年度も継続して実施した。課外でのグループ単位や個別での交流に加えて、1 年次および 2 年次の授業科目（「アジア学入門 B」、「基礎演習 II」など 4 科目）でも発表・意見交換という形で交流をおこなった。また新たに学部の国際化推進の一環として、輔仁大学から大学院生を 1 名 Q2 に招聘して学科生の中国語運用能力の向上を図った。
- 10) キャリア教育の一環として、1 年生を対象とする学び方講座を Q1 に、2 年生を対象とするキャリア入門講座を Q3 に 2 回、それぞれ対面で実施した。また、今年度は 3 年次生に対してもフランス学科と合同の形で Q1 にキャリア講演会を実施した。いずれも事後に実施したアンケート結果から学生にとって有益であったことが見てとれた。

以上